



# 日刊動力労千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒280 千葉市要町2番8号(動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番  
(公) 千葉 (22) 7207 番

91.7.5 No. 3421



修善寺大会の精神を忘るな

## 組合員に背をむける 国労指導部 現場は怒りまみれ

「中高齢者の大量出向」(住田社長発言)を中心とするJR東日本、「五万人体制」にむけた合理化攻撃が具体的に開始している今日、国労東日本本部は、六月十七日に開催した拡大委員会において、あろうことか、「出向協定」締結を強行採決した。

現場組合員の圧倒的多数が「締結」に反対しているといわれている中で、執行部は、現場の声を無視し、あえて、JR東日本との間での「和解」路線にカジを切る、という無法な行為に走った。

出向協定締結は、誰が考えても、敵の攻撃の前に自ら城を明け渡す、敗北の道ではないか。それは、JR内で苦闘する国労組合員を職場から追い出し、国労を深く支えている闘争団の切り捨て、解体に直結している。国労組合員はわれわれ同様、日々職場で当局の差別・選別攻撃と必死で闘っているのだ。執行部は、「地労委の勝利命令は凍結するが、出向差別があつたら闘う」と弁明しているらしいが、それを信ずる組合員がいるとも思っていないのだろうか。当局は常に、「人事運用は、就業規則にもとずき厳正におこなっている」と言いながら、公々然と差別攻

撃を繰り返している。組合員は、悔しい思いを怒りにかえて、歯をくいしばって頑張っている。この時、指導部のとるべき態度は、組合員の奮闘をしっかりと受けとめ、闘いの先

### 国労東日本・拡大委員会(6/17)で 出向協定締結を強行採決

7月3日「出向に関する確認事項」合意

頭に自ら立つことであり、決してその逆であつてはならないのである。

#### 圧倒的多数が 協定締結絶対反対

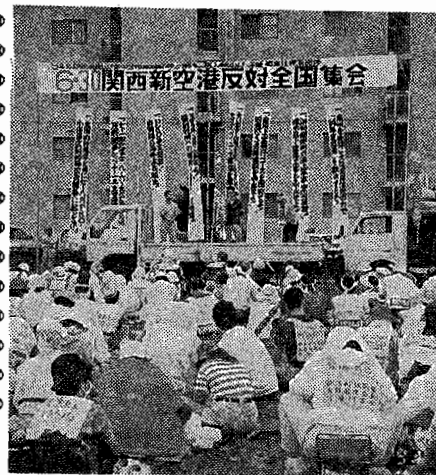
国労執行部が、何万字を費して「協定締結」の「意味」を説明し弁明につとめようと、それが国労の崩壊と五万人体制合理化への屈服ではないことは明白である。当然にも現場組合員は、猛然と反対に立ちあ

がっている。

そのことは、執行部が提出した「方針案付属資料、分会長会議等諸会議で出された主な意見」の中でも見ることが出来る。

「出向協定は首切りである。絶対反対で闘うべきだ」「協定を締結すれば、出向に対する闘いができない」「全国大会で全面一括解決要求を決定したが、和解による解決でなく命令の道に進むべきだ」等々。

千葉・高崎・東京地本や他の地本においても、職場討議では、ほとんどが「反対」であることが報告されている。これまでの苦闘も誇りも投げ捨て、「奴隷」協定を結び、国労を連合の道にひきずり込もうとする一部執行部の策動を断ちきることは闘う国鉄労働者すべての共通の課題である。



### 関西新空港反対 6.30 対闘争に決起



(上、94年夏開港阻止を誓う参加者。下、泉佐野市内を進むデモ隊。)

6月30日、大阪府・泉佐野市内において、関西新空港絶対反対泉州住民の会など大阪湾岸住民5団体の主催により、「関西新空港反対全国闘争」が650名参加のもと開催された。

集会では、大公害・自然破壊をまきおこし、完成すれば24時間空港として軍事利用に結びつく関西新空港の「94年夏開港」阻止にむけて、全力で闘いぬくことが確認された。

動力千葉は、関西労組交流センターの仲間とともに、連帯の挨拶をおこない、ともに闘いぬく決意を表明した。